

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の趣旨・内容，課題等，指導改善のポイント

○調査問題の趣旨・内容

数学A 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 正の数と負の数とその計算，文字式の計算をする。一元一次方程式や連立二元一次方程式を解く。
■ 平行移動した図形をかく。2直線に1直線が交わってできる角の位置について，正しい記述を選ぶ。
■ 比例のグラフから式を求める。二元一次方程式の解を表すグラフを選ぶ。
■ 与えられた資料から相対度数を求める。確率について，正しい記述を選ぶ。

数学B 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 万華鏡の模様について図形間の関係を図形の移動に着目して捉え，数学的な表現を用いて説明する。
■ 六角形を n 個作るのに必要なストローの本数を， $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する。
■ 与えられたデータを基に，貯水量が 1500万m^3 になるまでの日数を求める方法を説明する。
■ 分布の形に着目して2つの度数分布多角形を比較し，運動時間が420分以上の女子の方が体カテストの合計点が高い傾向にあるといえること理由を説明する。

○課題等

主な特徴

- 多角形の内角の和の求め方の理解，二元一次方程式と一次関数のグラフの関係の理解，相対度数を求めることについて，改善の傾向がみられる。[A6(2), A13, A14(2)]
- 扇形の弧の長さを求めること，関数の意味の理解，範囲の意味の理解について課題がある。
[A4(3), A9, A14(1)]
- 記述式問題のうち，事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。[B1(2)]
また，資料の傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。[B5(3)]

数と式

- ◇(A) 分数の乗法の計算，実生活の場面でのある数量が正の数と負の数で表されることの理解，簡単な一元一次方程式を解くことは，相当数の生徒ができています。[A1(1), A1(4), A3(1)]
- ◆(A) 数量の関係を文字式で表すことに課題がある。[A2(1)]
- ◆(A) 二元一次方程式の解の意味の理解について課題がある。[A3(3)]
- ◆(B) 数学的に表現された結果を事象に即して解釈することを通して，事柄が成り立つ理由を説明することに引き続き課題がある。[B2(3)]

図形

- ◇(A) 平行移動した図形をかくこと，円錐が回転体としてどのように構成されているかの理解，見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることは，相当数の生徒ができています。[A4(2), A5(2), A5(3)]
- ◆(A) 錯角の意味の理解について課題がある。[A6(1)]
- ◆(A) 作図の手順を読み，根拠として用いられている平行四辺形になるための条件の理解について引き続き課題がある。[A7(2)]
- ◆(B) 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え，数学的な表現を用いて説明することに課題がある。[B1(2)]

関数

- ◇(A) 比例の式について x の値に対応する y の値を求めることは，相当数の生徒ができています。[A10(1)]
- ◆(A) 反比例の表において，比例定数の意味の理解について課題がある。[A10(3)]
- ◆(A) 具体的な事象における2つの数量の変化や対応をグラフから読み取ることに課題がある。[A12]
- ◆(B) 事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。[B3(2)]

資料の活用

- ◆(A) 資料から範囲を読み取ることに課題がある。[A14(1)]
- ◆(B) 資料の傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。[B5(3)]

◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点 ()内の記号は，A…数学A，B…数学B
[]内の記号は，問題番号

○指導改善のポイント

数と式

- 数量の関係や法則などを文字式で表すことやその文字式から関係を読み取る活動の重視
 - ・ 数量の関係や法則について文字式で表すことができるようにするために、具体的な数や言葉を使った式を利用して数量の関係を捉え、その関係を文字式で表したり、文字式から数量の関係を捉えたりして、数量の関係や法則を文字式で表すことについて確認する活動を重視することが大切である。
- 事象と式の対応を捉え、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実
 - ・ 事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する活動を充実することが大切である。さらに、事象を数学的に考察し直し、様々な式を見いだすとともに、見いだした式を基に事象について振り返る活動を取り入れることも大切である。

図形

- 図形の考察を通して、辺や角についての位置関係を捉える活動の重視
 - ・ 図形における辺や角などの位置関係についての理解を深められるようにするために、実際に平面上に図形をかいたり、コンピュータを利用して示したりしながら視覚的に捉え、辺や角の位置関係について確認したり、検討したりする活動を重視することが大切である。
- 見いだした事柄や事実について数学的に表現すべき部分を明確にして説明する活動の充実
 - ・ 図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるようにするために、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する場面を設定することが大切である。その際、説明される結論が正しいものとなるようにするためには、前提となる条件が不足していないかどうかについて検討したり、振り返ったりする活動を重視することが大切である。

関数

- 2つの数量の関係に関数関係を見だし、変化や対応の様子を表現する活動の重視
 - ・ 2つの数量の関係から関数関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象における2つの数量について一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まる関係を確認する活動を重視することが大切である。さらに、その2つの数量について変化や対応の様子を表・式・グラフを用いて捉え、それらを相互に関連付けて考察することを通して、どのような関数になりそうか検討し、関数関係を判断する活動も大切である。
- 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実
 - ・ 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際に、問題解決のために表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。

資料の活用

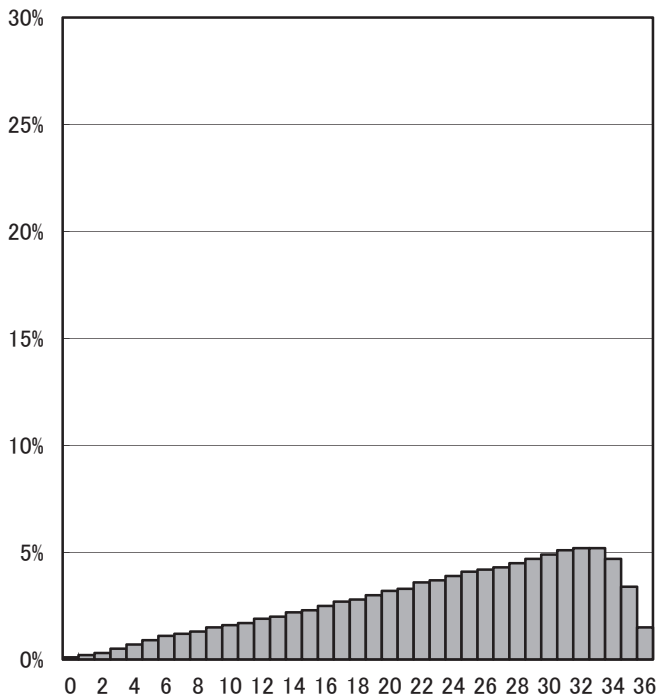
- 代表値の必要性や意味を理解するために資料を整理した表などから代表値を求める活動の重視
 - ・ 代表値の必要性や意味を理解するために、目的に応じてデータを収集し整理した表などから代表値を求め、それを根拠にして資料の傾向を捉える活動を重視することが大切である。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実
 - ・ 日常生活や社会における問題に対して、資料を用いて傾向を的確に捉え問題を解決できるようにするために、収集したデータを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実することが大切である。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

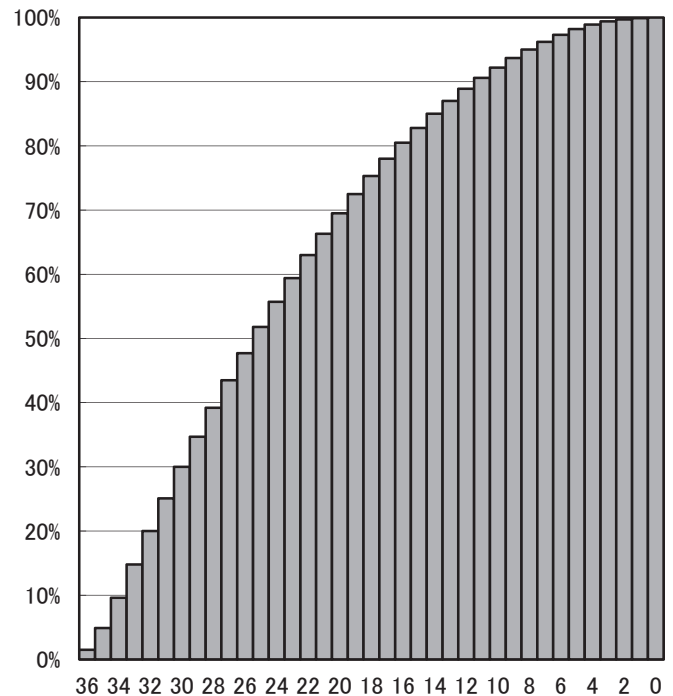
【数学A】

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
1,024,189人	23.5問/36問	65.2%	25.0問	8.4	32問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



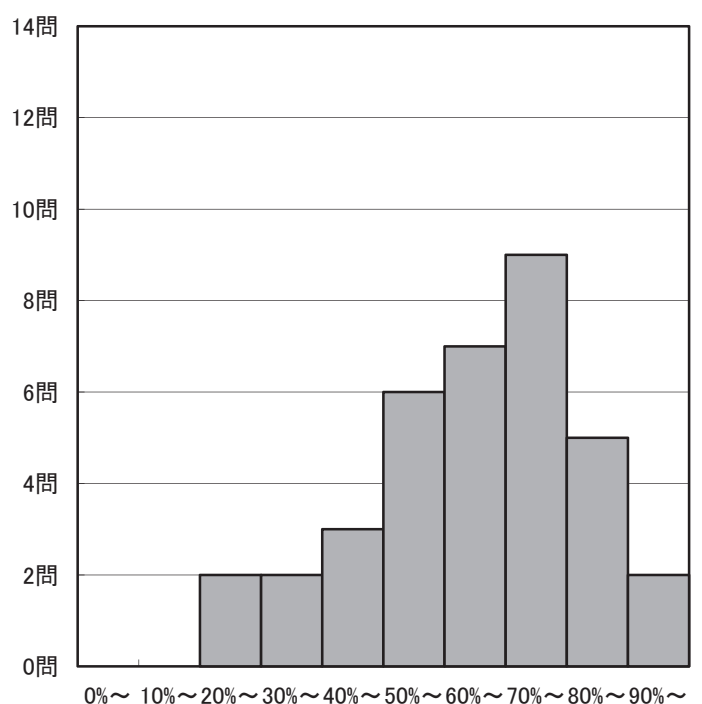
正答数累積グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 累積割合)



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導 要領の 領域	数と式	12	71.1
	図形	12	66.5
	関数	8	57.9
	資料の活用	4	57.9
評価の 観点	数学への関心・意欲・態度	0	
	数学的な見方や考え方	0	
	数学的な技能	20	68.8
	数量や図形などについての知識・理解	16	60.6
問題形式	選択式	13	67.2
	短答式	23	64.0
	記述式	0	

正答率別問題数 (横軸: 正答率, 縦軸: 問題数)



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率 (%)	無解答率 (%)
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式		
1 (1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	小6 (1) イ						○*			○		87.6	1.2
1 (2)	a と b が負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	2つの負の数の和は負の数になることを理解している	1 (1) イ									○	○	70.1	0.2
1 (3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1 (1) ウ							○		○		76.2	1.1
1 (4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す	実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1 (1) ア、エ									○		89.7	2.7
2 (1)	5mの重さが a g の針金の 1mの重さを、 a を用いた式で表す	数量の関係を文字式で表すことができる	1 (2) エ							○			○	57.4	7.8
2 (2)	$100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	1 (2) エ							○		○		76.1	0.3
2 (3)	$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2 (1) ア							○			○	78.8	1.6
2 (4)	等式 $x + 4y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができる	2 (1) ウ							○			○	57.0	8.5
3 (1)	一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	1 (3) ウ							○			○	83.2	6.2
3 (2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる	1 (3) ウ							○			○	53.6	16.2
3 (3)	$x + y = 2$ の解の意味について選ぶ	二元一次方程式の解の意味を理解している	2 (2) ア								○	○		60.2	0.9
3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2 (2) ウ							○			○	63.0	14.4
4 (1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	1 (1) ア								○	○		68.0	1.0
4 (2)	$\triangle ABC$ を、点 A から点 P に移すように平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかくことができる	1 (1) イ							○			○	90.8	2.4
4 (3)	半径が 5 cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める	扇形の弧の長さを求めることができる	1 (2) ウ							○			○	32.2	19.1
5 (1)	直方体において、与えられた辺に平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	1 (2) ア								○		○	67.5	2.9
5 (2)	1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ	円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している	1 (2) イ								○	○		90.3	0.4
5 (3)	立方体の見取図を読み取り、2つの線分の長さの関係について、正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる	1 (2) イ							○		○		80.7	0.5
5 (4)	円柱の体積を求める	円柱の体積を求めることができる	1 (2) ウ							○			○	53.0	9.4

* 評価の観点は、数量や図形についての技能（小学校）に対応させている。

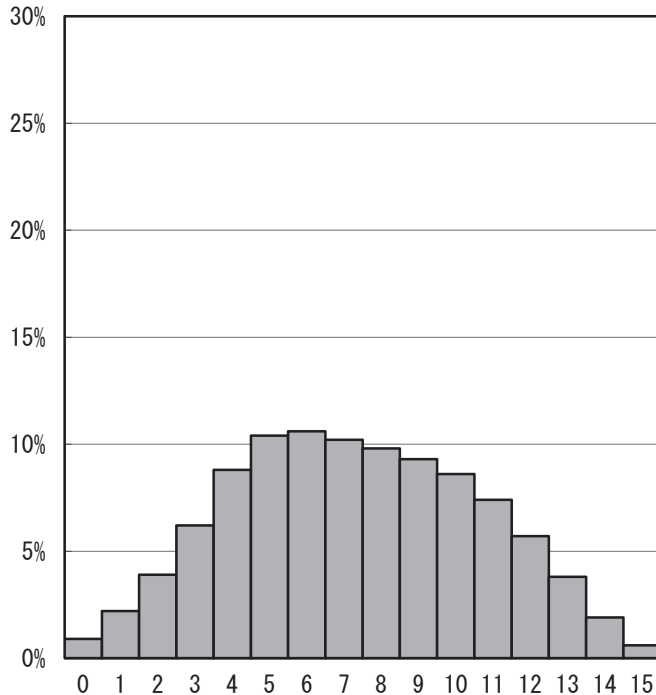
問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)	無解答率(%)
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式		
6(1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している	2(1) ア							○	○			42.6	0.5
6(2)	n角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を数える	多角形の内角の和の求め方を理解している	2(1) イ							○	○			69.8	0.9
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2) ア							○		○		78.9	4.7
7(2)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	2(2) ウ							○	○			49.7	0.8
8	事柄「 $\angle ABD = \angle CBD$, $\angle ADB = \angle CDB$ ならば, $AB = CB$ である。」の仮定をすべて書く	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる	2(2) イ								○		○	74.5	9.8
9	長方形の縦の長さや面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	1(1) ア							○		○		21.1	20.2
10(1)	比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めることができる	1(1) エ							○		○		85.0	7.1
10(2)	比例のグラフから式を求める	与えられた比例のグラフから、 x と y の関係を $y = ax$ の式で表すことができる	1(1) エ							○		○		57.6	9.3
10(3)	反比例の表から比例定数を求める	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している	1(1) イ							○		○		35.5	20.3
11(1)	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、 x と y の関係を $y = ax + b$ の式で表すことができる	2(1) イ							○		○		76.4	9.8
11(2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している	2(1) イ							○	○			56.4	1.7
12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を数える	具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる	2(1) ア							○		○		68.1	1.1
13	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ	二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している	2(1) ウ							○	○			63.4	2.1
14(1)	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している	1(1) ア							○		○		28.8	9.4
14(2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる	1(1) イ							○		○		46.1	14.7
15(1)	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	「同様に確からしい」ことの意味を理解している	2(1) ア							○	○			78.2	1.7
15(2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる	2(1) ア							○		○		78.7	7.7

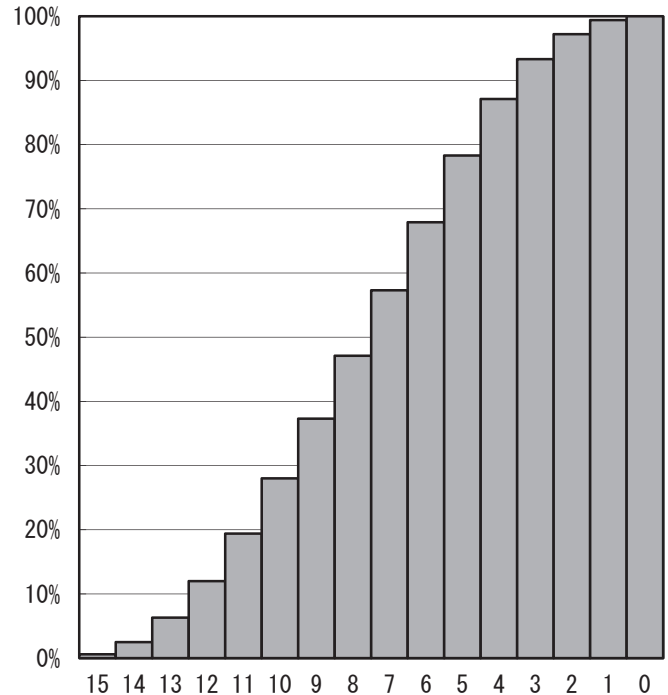
【数学B】

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
1,024,165人	7.3問/15問	48.7%	7.0問	3.3	6問

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



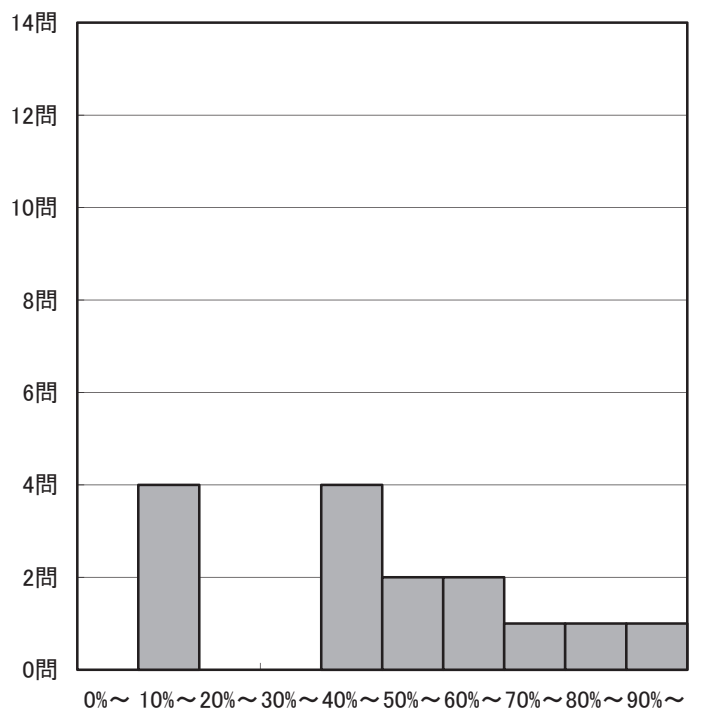
正答数累積グラフ（横軸：正答数，縦軸：累積割合）



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と式	3	47.2
	図形	6	47.8
	関数	3	51.5
	資料の活用	3	49.4
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	
	数学的な見方や考え方	10	37.4
	数学的な技能	3	62.1
	数量や図形などについての知識・理解	2	85.3
問題形式	選択式	4	54.2
	短答式	6	67.0
	記述式	5	22.5

正答率別問題数（横軸：正答率，縦軸：問題数）



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率 (%)	無解答率 (%)
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式		
1 (1)	隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ	事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる		1 (1) イ					○		○		68.0	0.2
1 (2)	四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様になるとき、どのような回転移動になるかを説明する	2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる		1 (1) イ				○			○		14.8	17.3
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる		1 (1) イ				○		○			53.2	0.3
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1 (2) ア					○		○			80.8	1.3
2 (2)	六角形をn個並べて6本ずつ困んだときに、2回数えているストローをnを用いた式で表す	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	1 (2) ア					○		○			45.2	8.0
2 (3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	1 (2) ア					○			○		15.5	22.8
3 (1)	与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万 m^3 であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1 (1) ウ					○	○		91.0	3.4
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2 (1) イ、エ			○			○		19.1	32.8
3 (3)	与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる			2 (1) イ			○		○			44.6	17.0
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる	2 (2) イ、ウ					○			○		45.0	19.8
4 (2)	$\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる	2 (1) ア					○		○			61.0	10.7
4 (3)	点Dと点Eを $BD = CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる	2 (1) ア 2 (2) ウ					○		○			44.9	0.9
5 (1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる			1 (1) ア					○	○		79.6	5.8
5 (2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ	与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる			1 (1) ア、イ			○		○			50.6	0.8
5 (3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1) イ			○			○		18.0	30.6

(3) 知識に関する調査と活用に関する調査の相関等

■ 数学Aと数学Bの相関等

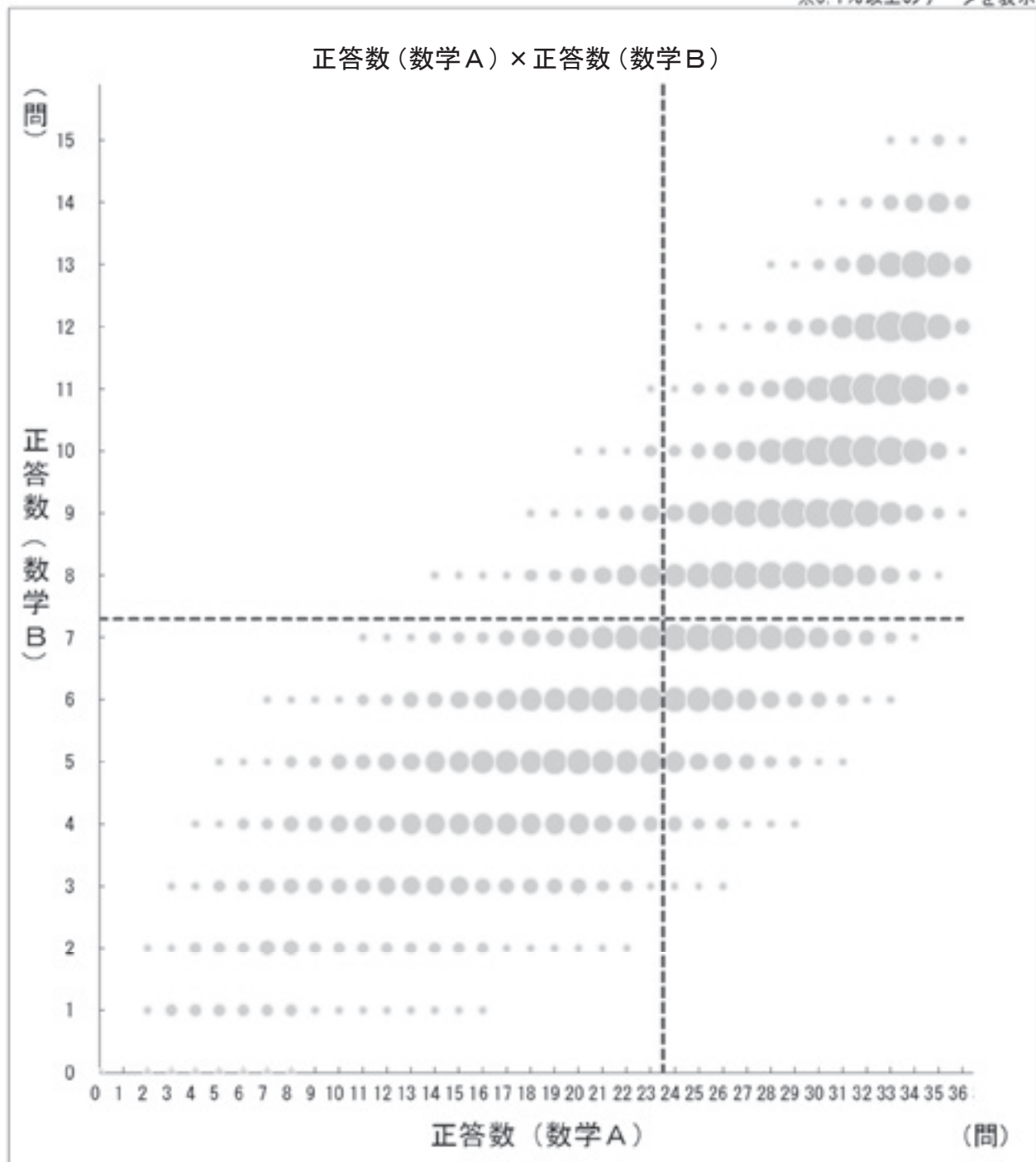
- 中学校において、数学Aと数学Bの正答数に高い相関（相関係数 0.804）が見られる。
- 「数学Aは平均以上」かつ「数学Bは平均未満」の生徒の割合は 13.4%、「数学Aは平均未満」かつ「数学Bは平均以上」の生徒の割合は 4.6%となっている。前者の生徒は後者の生徒の2倍以上いる。

数学Aの正答数、数学Bの正答数、正答生徒数の相関をバブルチャートに表したもの。

※ バブルチャート：2軸の座標軸の上に、大きさが3軸目の指標を示す円状の図（バブル）を配置した図表。

生徒数	全国（国公立） 数学A平均正答数	全国（国公立） 数学B平均正答数	生徒の正答数分布状況（上段：生徒数 下段：生徒数の割合（%））				相関係数
			数学A・数学B ともに平均以上	数学Aは平均以上 数学Bは平均未満	数学Aは平均未満 数学Bは平均以上	数学A・数学B ともに平均未満	
1,023,579	23.5	7.3	433,242	136,655	46,871	406,811	0.804
			42.3	13.4	4.6	39.7	

※0.1%以上のデータを表示

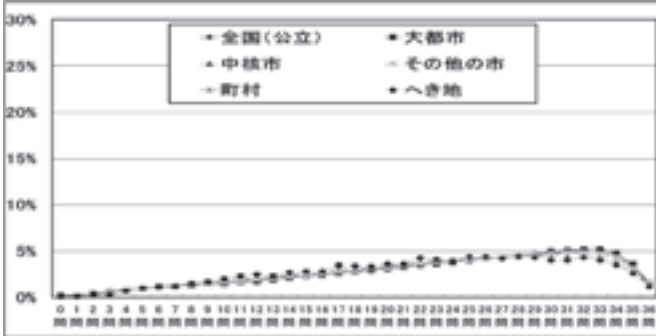


※グラフの点積は、全国（国公立）の平均正答数を表す。

(4) 地域の規模等の状況

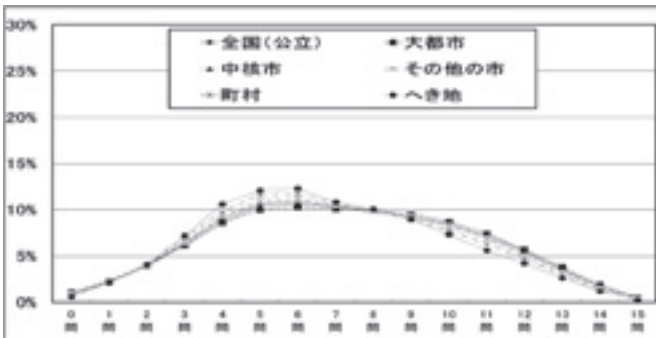
○ 平均正答数, 平均正答率, 中央値, 標準偏差を見ると, 28 年度同様, 地域の規模等 (公立: 大都市, 中核市, その他の市, 町村, へき地) による大きな差は見られない。

[数学A] 正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国 (公立)	982,811	23.3 / 36	64.6	25.0	8.5
大都市	239,047	23.4 / 36	65.1	25.0	8.6
中核市	150,174	23.5 / 36	65.3	25.0	8.4
その他の市	494,547	23.1 / 36	64.1	24.0	8.4
町村	89,551	22.7 / 36	63.0	24.0	8.4
へき地	15,148	22.4 / 36	62.2	23.0	8.2

[数学B] 正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国 (公立)	982,786	7.2 / 15	48.1	7.0	3.3
大都市	239,043	7.3 / 15	48.8	7.0	3.3
中核市	150,167	7.3 / 15	48.6	7.0	3.3
その他の市	494,549	7.1 / 15	47.5	7.0	3.2
町村	89,537	7.0 / 15	46.5	7.0	3.2
へき地	15,149	6.8 / 15	45.6	7.0	3.1

※大都市 (政令指定都市及び東京 23 区), 中核市, その他の市, 町村の値は, 当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果 (正答数) を集計したものである (都道府県立学校は含まない)。

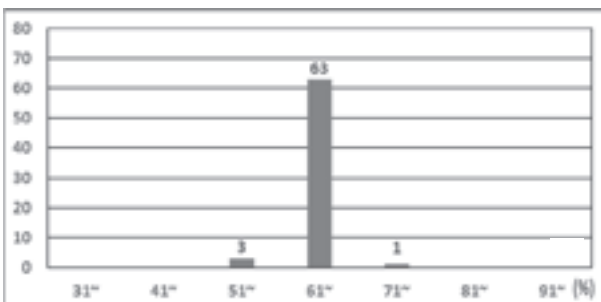
※へき地の値は, へき地教育振興法及び各都道府県の条例 (規則) によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市, 中核市, その他の市, 町村の値に重複する。

(5) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市 (公立) の状況については, 平均正答率を見ると, 28 年度同様, ほとんどの都道府県・指定都市が平均正答率の±5%の範囲内にあり, 大きな差は見られない。

[数学A]

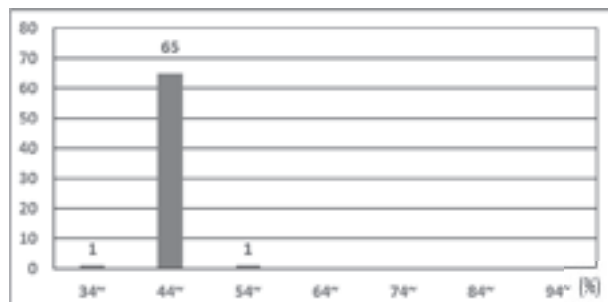
正答率分布グラフ (横軸: 平均正答率, 縦軸: 都道府県・指定都市数)



全国 (公立) の平均正答率	全都道府県市 (公立) 中, 最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市 (公立) 中, 最低平均正答率【全国との差】
65%	73% 【+8%】	58% 【-7%】

[数学B]

正答率分布グラフ (横軸: 平均正答率, 縦軸: 都道府県・指定都市数)



全国 (公立) の平均正答率	全都道府県市 (公立) 中, 最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市 (公立) 中, 最低平均正答率【全国との差】
48%	54% 【+6%】	42% 【-6%】

※都道府県は指定都市を除く。全国 (公立) の平均正答率は整数値で表示している。

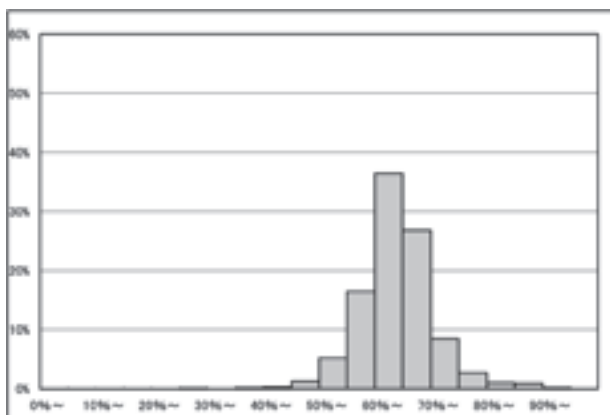
(6) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、28年度同様、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[数学A]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率(%)	教育委員会の中央値(%)	教育委員会の標準偏差
1,775	23.0 / 36	63.9	63.9	6.6

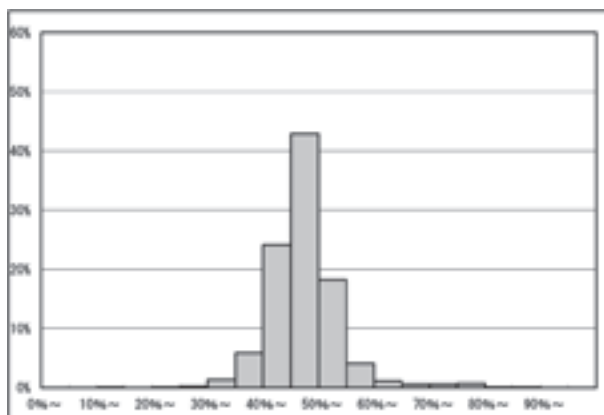
正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



[数学B]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率(%)	教育委員会の中央値(%)	教育委員会の標準偏差
1,775	7.1 / 15	47.4	47.0	6.4

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



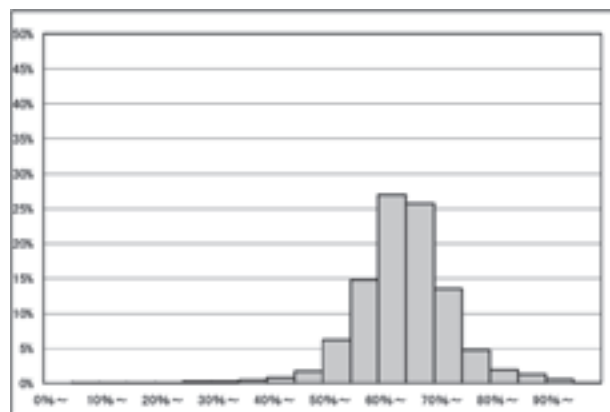
(7) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、28年度同様、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[数学A]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率(%)	学校の中央値(%)	学校の標準偏差
9,981	23.2 / 36	64.4	64.6	9.0

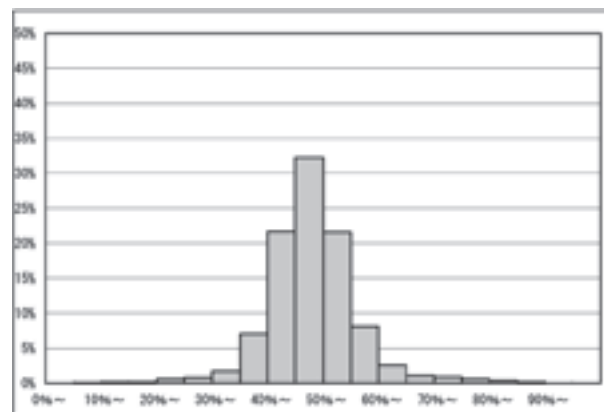
正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）



[数学B]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率(%)	学校の中央値(%)	学校の標準偏差
9,981	7.2 / 15	48.1	47.7	8.4

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）

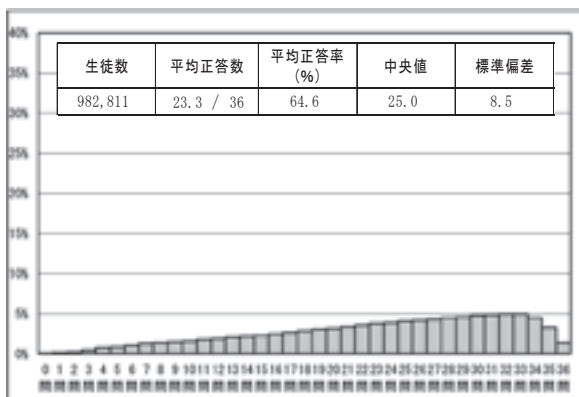


(8) 国・公・私立学校の状況

○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、28年度同様、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

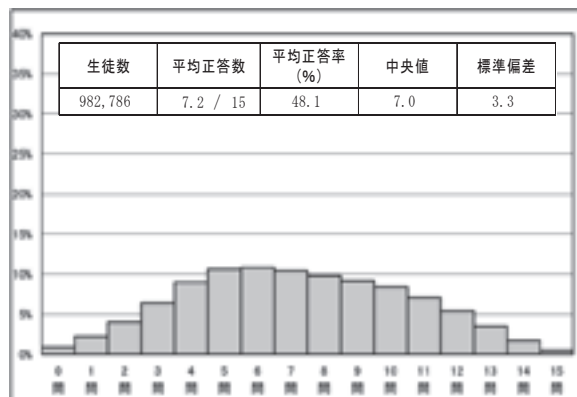
[数学A]

<公立> 正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)

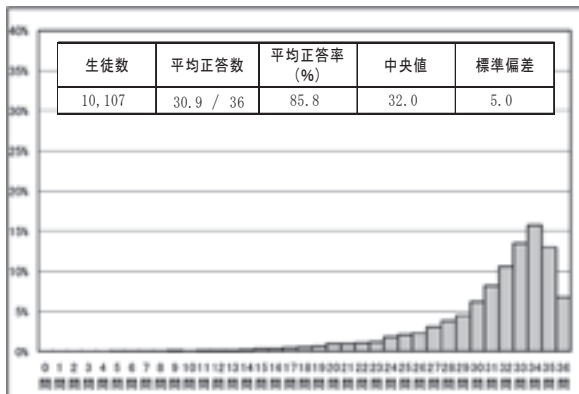


[数学B]

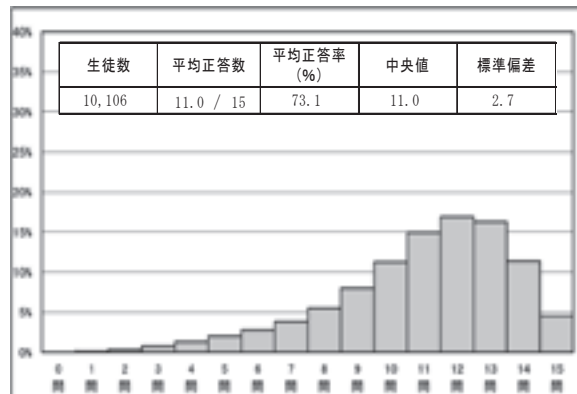
<公立> 正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)



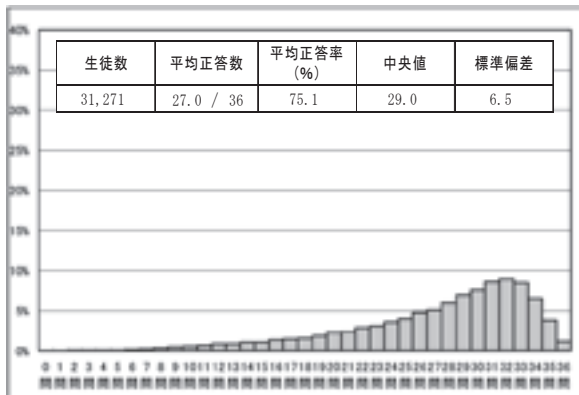
<国立> 正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)



<国立> 正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)



<私立> 正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)



<私立> 正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)

